



2023 年度（令和 5 年度・第 9 期）

事業計画書

1. 2023 年度 事業方針
2. 2023 年度 事業計画書
3. 中期計画目標（2025 ビジョン）
4. 2023 年度 活動予算書

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

1. 2023 年度 事業方針

ポケットサポートは 2022 年度の事業方針のテーマを「知ってもらう・つながる・広める」とし、原点に立ち返るような 1 年間となりました。子どもたちとご家族から、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 禍 (以下、コロナ禍) という難局の中でも、気軽に相談ができ頼ることのできる「つながり」を継続することが大切ということ、学ばせていただきました。それは、今までずっと団体として大切にしてきた「関係性」、「安心できる場所」を作っていくことと合致していました。

そこから前年度は、団体の新たな試みとして Google 検索を使つての分析や、YouTube による動画広告の運用を通じて、病気を抱える子どもたち、その家族のニーズを新たに捉えることができました。県内の病気療養児に関する多職種連携ネットワークも形成することができ、関係者間においてもポケットサポートが「病気を抱える子どもの支援団体」という認知や信頼が上がってきたように感じています。

オンライン支援の充実と、先の新たな試みの努力が実を結び、岡山県内はもちろん県外からの相談件数も増えてきました。私たちと出会ってくれたことで、つながりが広がり、友達ができ、前向きな気持ちになれたご家族もたくさんいらっしゃいました。



「闘病生活も長くなり先の見えない不安を抱えながらも今を楽しく生きようと奮闘しています。不安の数を上げればきりが無いけれど、沢山の人たちに支えてもらいながら、今を生きていられることに感謝でいっぱいです。ありがとうございました。」

「6 年前の突然の発症で、周囲に病気療養する子どもがおらず辛い日々だった。ポケットサポートに出会えたことで、楽しい活動やニュースレターでの情報で前向きになれた。プレゼントも喜んでいいる。学習支援の団体かと思っていたが、交流活動もあると知って、最初は連絡を躊躇していたが相談して良かった。今後は、慢性疾病を抱えて成人された人の思いや進学について、病気の子ども親の話も聞きたい。」



「小児慢性疾病に関する専門家であったとしても、相談を聞いてくれる担当者が当事者・経験者ということが大きく、安心して相談できました」

ご家族からいただいたメッセージを通して、安心して相談できる【場】と、信頼のおけるポケットサポートの【人】ということが、大切だということを改めて感じさせていただきました。そのため、2023 度の事業方針は『つながる【場】と【人】をさらに提供していくこと』とします。



【場】としては、コロナ禍以前より病気を抱える子どもたちの支援活動で行ってきた感染症対策に注力しながら、子どもたちやご家族からもニーズが多いリアルな交流の場作りを、状況に応じて可能な限り求めていきたいと考えています。

新たな【場】として、2025年ビジョンのまめに入っていく年と捉え、支援拠点の移転拡充により、多様な学びや相談に対応できる環境作りも今年度から視野に入れていきます。



【人】としては昨年度形成した病気療養児の多職種連携ネットワークをさらに拡大し強固なものにしていきたいと考えています。加えて、岡山県をモデルとした病気療養児支援の在り方を各地へ広め伝えることによって、他地域での病気療養児支援に関する協力体制も図りたいと思います。

また、支援員の増員や大学生のボランティア育成にも力を入れ、子どもたちが安心して関わる【人】のさらなる充実も行っていきたいと考えています。

それらを達成していくための礎として、来年度は支援者拡充のためのファンレイズも実施します。発信力と拡散力、さらに信頼のおける広いネットワークを武器として、私たちの活動の思いを込めた動画やWEBページにより、さらに多くの方への認知と、支援拡大に伴う【場】と【人】の充実を試みていきます。

以上の事業を展開しながら、2023年度も、病気を抱える子どもたちが安心して過ごせる社会づくりのため、一緒に未来を作っていく仲間たちと共に取り組んで参りたいと思います。

代表理事 三好 祐也



2. 2023年度（令和5年度・第9期）事業計画書

(1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
個別学習支援 (双方向 WEB)	自宅療養中や復学初期の子どもに対して支援拠点や ICT を活用した学習支援	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ100名	随 時 支援拠点等	2,500,000
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	年間 延べ 20名	大学生 延べ100名	年5回 オンライン等	300,000
科学と数学の 対話型体験学習	探究学習プログラム GEMS を活用した学びや発見・考える楽しさを再発見する (MDRT Foundation-Japan 助成)	年間 延べ 30名	小中高校生 延べ50名	年2~3回 オンライン等	200,000
小計					3,000,000

(2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
ポケットスペース (岡山市)	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施 (岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業)	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ130名	年間100日 市内3拠点	2,300,000
ポケットスペース (岡山県)	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施 (岡山県小児慢性特定疾病児童等自立支援事業)	年間 延べ 300名	小中高校生 延べ80名	年間80日 県内3拠点	3,200,000
交流イベント (きょうだい含む)	季節に応じた体験交流イベント開催で当事者同士のピアサポート、自分らしい家族形成支援に繋げる	年間 延べ 50名	小中高校生 延べ100名	年5回 オンライン等	1,000,000
小計					6,500,000

(3) 病弱児への支援に関する啓発活動および拡充事業

事業名	事業内容	従事者	受益対象者	日時・場所	支出見込額
講師派遣事業	大学等の教育機関や研修会に講師派遣病弱児支援について広報、周知活動	年間 延べ 20名	受講者 延べ600名	随 時 全国各地	200,000
病気療養する 高校生世代の 支援拡充事業	岡山県内における AYA 世代支援ネットワークづくりフォーラム開催 (橋本財団ソーシャルワーク支援助成)	年間 延べ 50名	教育関係者等 延べ300名	8月講演会等 オンライン等	700,000
全国病気療養児 支援アドバイザー ニーズ調査	県外からの相談にも対応できるように全国各地の支援者とのつながりを構築 (ベネッセこども基金自主事業)	年間 延べ 50名	教育関係者等 延べ100名	随 時 オンライン等	700,000
当事者家族との つながり拡充事業	県内3地域に出張しての相談会開催と病気療養児サポートブックの制作 (田辺三菱製薬手のひらパートナープログラム助成)	年間 延べ 50名	当事者家族等 延べ100名	年3回 県内3会場	700,000
WEBを活用した 情報発信強化事業	PV 動画やデジタル広告を活用した資金調達強化と WEB アウトリーチ拡充 (大和証券こども支援団体サステナブル基金助成)	年間 延べ 50名	当事者家族等 延べ200名	随 時 オンライン等	3,500,000
小計					5,800,000

事業費合計：15,300,000 円

3. 中期計画目標（2025 ビジョン）

Vision（解決を目指す社会問題および実現を目指す理想像）

病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち自分らしく暮らせる社会をつくる

Mission（ポケットサポートが社会で果たすべき使命）

1. 『環境をつくる』

病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように
学習支援・復学支援・自立支援ができる環境をつくる

2. 『生きる力を育む』

病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう
当事者や専門家と共に子どもや家族の「生きる力」を育む

3. 『人や気持ちを繋ぐ』

病気の子どもに関わる人を繋ぐコーディネートを行うと共に
社会への理解啓発を行い理解者・支援者を増やしていく

<2025 年度に実現を目指す社会や対象の状況>

1. 『環境をつくる』 取り組み

- ①学習、遊び、体験、相談を通じた復学支援・自立支援を行う
- ②外出困難な子どもや家族へ、アウトリーチや ICT 利用による学習や相談支援を行う
- ③入院中や療養中の子どもの対応を個別に検討
- ④教育行政や学校現場と連携し、慢性疾病等の小学生～高校生の入院中及び療養中の教育機会の提供を目指す(ICT 利用による学習、出席代替のシステム作り等)
- ⑤スタッフ及び支援ボランティアをはじめとする支援者の育成と教育
- ⑥岡山市内・近隣地域を含む医療機関内での支援活動を行う

2. 『生きる力を育む』 取り組み

- ①子どもたちが自分自身の困難を知り「伝える努力」と「休む勇氣」を持てるようピアサポートを通じて、合理的配慮を得るための手法を伝え広める
- ②保護者が集まり日頃の悩みを話す場、ピアカウンセリングできる場を提供
- ③病弱児やそのきょうだいも楽しめるイベントを開催
- ④病弱の若年者が働ける環境作りの協力と支援

3. 『人や気持ちを繋ぐ』 取り組み

- ①医療・保健行政との連携による、慢性疾患児やその家族との関係構築
- ②岡山市内・近隣地域の学校との連携による、慢性疾患児の学校生活における個別案件の共有
- ③他の病弱児支援団体との連携やノウハウの共有・会の共催
- ④病弱児の置かれている環境の理解を広げる講演・啓発活動開催、ツール作成